

公共政策における法学と経済学の役割

VS Booklet 3

内田浩史・大内伸哉・著

法学と経済学の強みと限界から、異分野協働の可能性を考える。

公共政策とは、社会の課題を解決するために政府が行う様々な政策を指し、これには法学と経済学の知見が不可欠である。法学は主に制度設計や規則の解釈を通じて政策を支え、経済学は資源配分の効率性という観点から見て望ましい政策を提言する。これらの特性は、相互補完的な役割を果たすが、両者が協働しても解決できない課題も存在する。法学と経済学の視点を基に公共政策を探り、学問領域を越えた新たな協働の形を考える。



第1章 はじめに

内田浩史

- 1 本日のサロンとその背景
- 2 本日の構成と注意点

第2章 公共政策における法学の役割

大内伸哉

- 1 公共政策としての労働政策
- 2 法学のアプローチ：解釈論と立法論
- 3 労働法で実現すべき価値
- 4 解雇権濫用法理の難しさ
- 5 解雇規制は誰の利益を守っているのか
- 6 正義の相対性
- 7 労働政策が実現すべきもの
：労働の価値と政府の役割

第3章 公共政策における経済学の役割

内田浩史

- 1 経済学による公共政策に関する判断
：銀商分離のワンウェイ規制を例として
- 2 公共政策における法学と経済学の役割

第4章 話題提供者間の意見交換

大内伸哉・内田浩史

- 1 比較法のアプローチについて
- 2 理想と現実
- 3 様々な学問分野の協働について

第5章 フロアとのディスカッション

A5 判並製 88 ページ

定価 880 円(税込)

2025 年 3 月発売

発行：神戸大学出版会 神戸市灘区六甲台町2-1 神戸大学社会科学系図書館内 TEL078-803-7315 FAX078-803-7320

発売：神戸新聞総合出版センター 神戸市中央区東川崎町1丁目5-7 神戸情報文化ビル9F TEL078-362-7138 FAX078-361-7552